

10月にがんの知識の普及啓発イベントを開催

がんと働く応援団らが市長に報告



啓発の横断幕を持つ山口市長(中)と応援団の皆さん

がん経験者たちが、治療と仕事の両立などを支援する市民活動団体「がんと働く応援団」が10月に開催する啓発イベントを市長に報告しました。

イベントは、市民活動団体と市が協力し、地域社会の課題解決に向けて取り組む「市民協働提案事業」の一環。がんの知識や検診の普及に向け、医師やがん経験者で歌手の麻倉未稀さんを招いた講演会などを実施します。ウィッグの着用体験や厚木はやぶさFCとの交流ブースも設置予定です。

応援団の野北まどか 共同代表理事は「子どもから大人まで楽しめるイベント。気軽に足を運んでほしい」と参加を呼び掛けました。

牛乳を飲んで酪農家を応援

本厚木駅前消費拡大を呼び掛け

6月1日の「牛乳の日」に併せ「牛乳を飲むMOWキャンペーン」を実施しました。市内の酪農家や職員ら18人が紙パックの牛乳や啓発物品を歩行者約300人に手渡しました。キャンペーンは、飼料価格・電気代の高騰などで全国的に厳しい経営状況の酪農家を応援するため、初めて実施。市内酪農家と市、農業協同組合が協力し牛乳の消費拡大を呼び掛けました。

参加した酪農家の小野晴巳さん(64・荻野)は「朝の慌ただしい時間でも牛乳を受け取ってくれてうれしかった。消費者と顔が合わせられ、また頑張ろうという気持ちになった」と笑顔で話しました。



子どもたちに牛乳を手渡す酪農家



最優秀賞の2作品が実物に

デザインマンホールふたを設置

コンテストは昨年、市の公共下水道事業50周年を記念し下水道に関心や親しみを持ってもらうため開催。「厚木の魅力」をテーマに公募し、応募総数346点の中から小学生以下部門と一般部門で最優秀賞を決定しました。

今後は、より多くの皆さんにデザインを目にしてもらえるよう、マンホールカードも作成予定です。



小学生(左)・一般部門(右)のデザイン

マンホールデザインコンテストで最優秀賞に選ばれた2作品のふたを製作し、本厚木駅前設置しました。2作品は、設置に先駆け6月、中央図書館と市役所に展示。北口に小学生部門の瀬沼歩美さん(妻田小)、南口に一般部門の野村涼香さんの作品を配置しました。

歯を守っていつまでも健康に

歯と口の健康週間行事を開催

6月4～10日の「歯と口の健康週間」に併せ、厚木歯科医師会が歯科医師のなかりきり体験や歯並び相談など、歯と口の健康を学べるイベントを開催しました。

参加者からの歯並びや子どもの歯磨きなどの相談に、歯科医師や専門学校の学生が、ケア方法や道具の選び方など一人一人にポイントを解説。なりきり体験では、白衣を着た子どもたちが歯科医師に扮し、実際の治療で使用する器材と虫歯の模型を使い、歯の治療体験に挑戦しました。



真剣な表情で治療に挑戦

親子で参加した堀本彩さん(34・戸室)は「子どもの歯並びに不安を感じていたので参加した。歯科医師に相談できる機会があった」と話しました。

第4回 みんなで目指そう カーボンニュートラル

カーボンニュートラル(CN)とは、地球温暖化の原因である温室効果ガスの排出を減らし、植林や森林管理などによる吸収量を増やすことで、実質ゼロを目指す取り組みです。連載では、今日から挑戦できる取り組みを紹介しします。

今月の挑戦 太陽光発電を知ろう



屋根だけでなくカーポートタイプのパネルもある

CNの達成には、再生可能エネルギーの活用が不可欠です。太陽の力で発電する太陽光パネルもその一つ。設置費用は10年前に比べ約38%下がり、平均で150～200万円です。

7月から設備の導入費や自家消費などの補助金が充実しました。最大で65万円を補助し、設置する家庭や事業者を応援します。

CNプラットフォームでは、補助金の情報などをより詳しく掲載しています。

環境政策課 ☎225-2749



「いつまでも恵みを与えてくれる母なる川で在り続けてほしい」。5月下旬、相模川クリーンキャンペーンで河原の清掃をした後、子どもたちと一緒にアユの稚魚を川へ放しました。元気に泳いでいく稚アユと子どもたちの生き生きとした笑顔に、未来の厚木の姿を見た気がしてうれしくなりました。

相模川の清掃は、1971年に始まった歴史ある活動です。今年には約1900人の参加があり、皆さんのといえ、鮎まつりの花火とバーベキューで、家族との楽しい思い出がたくさんあります。きつと多くの皆さんにとっても、親しみのある大切な存在ではないでしょうか。相模川は古くから、飲料・農業用水の供給や水運など、まちを発展させる礎となってきました。この地域に欠かせない財産を生かし、さらなるまちの活性化につなげていけるよう、そして、未来へと引き継いでいくために取り組んでまいります。



約1万匹の稚魚を放流した

変わらぬ川への愛情を感じました。6月からはアユ釣りも解禁され、遠方からも釣り人が訪れています。多くのアユが遡上し、かつては鮎川とも呼ばれた相模川。作家の和泉傳さんも、この時期になると友人たちと投網を楽しんでいたようです。私にとつての相模川